

Come on in Olympiad in Informatics!

情報オリンピックに参加しよう! No.26



日本代表選手4名が決定

第31回 国際情報オリンピック アゼルバイジャン大会 出場

IOI 2020
参加者募集



JOIウェブサイト
www.joi-jp.org

国際大会の
日本代表を目指す
選手を募集しています!



LINE UP

第31回 国際情報オリンピック

IOI2019 アゼルバイジャン大会日本代表選手決定

JOI 2018 / 2019 本選 成績優秀者

JOI 2018 / 2019 本選 奨励賞成績優秀者

永年協賛企業表彰

JCIOI TOPICS

これまでの情報オリンピック参加者からのメッセージ

第19回日本情報オリンピックに参加しよう! / ご支援のお願い

IOI2019 日本代表選手決定!!



2019年3月19日～25日JOI2018/2019本選成績上位21名を集めて、春季トレーニング合宿が行われました。21名は、NTT DATA駒場研修センター（東京都目黒区）において、4日間の競技（各5時間3課題）・解析を行った後、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）に移動して講義、夕食後も講評・解説という日程をこなしました。

その結果、3月24日NTT DATA駒場研修センターにおいて「第31回国際情報オリンピックアゼルバイジャン大会（IOI2019）」に派遣する日本代表選手4名が決定しました。また、IOI2019日本代表選手団を率いる団長・副団長・随行員が発表されました。日本選手団の結団式を行い、算理事長から清水随行員に国旗が渡されました。



算理事長から随行員の清水さんに国旗が渡されました

IOI2019 日本代表選手団

とだか そら 戸高 空	宮崎県立宮崎西高等学校（宮崎県）2年
なめかた こういち 行方 光一	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）2年
ひらき やすたか 平木 康傑	灘高等学校（兵庫県）1年
よねだ まさたか 米田 優峻	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）1年

五十音順／カッコ内は学校所在地

団長：	井上 卓哉 （東京大学2年）
副団長：	伊佐 碩恭 （東京大学2年）
随行員：	清水 郁実 （N高等学校3年）

所属・学年は2019年3月24日 代表発表会時点



井上航選手と岸田陸玖選手よりIOI2018JAPANの報告がありました

日本代表選手団よりコメント

所属・学年は2019年5月寄稿時点

戸高 空

宮崎県立宮崎西高等学校 3年



今回、初めて国際大会に出場するので、とても楽しみであるのと同時に不安も感じます。春合宿では、ほとんど悔いなく競技を終えることができましたが、だからこそ自分の足りないところも痛感しました。

目標としては、今の自分の実力ではまだ足りませんが、これから本番までしっかり準備をして、実力をつけて、金メダルを目指したいです。どんな状況でも楽しむことを忘れず、全力で取り組んでいきたいと思います。

平木 康傑

灘高等学校 2年



来るアゼルバイジャン大会、競技で金メダルをとるのは勿論のこと、海外選手との交流も積極的に（それはもう積極的に！）やっていきます。昨年度のIOIでは緊張と英語力の低さからあまりにコミュニケーションが成立しませんでした。これで2回目の参加ということで堂々として人と接していきたいです。会場の建物もすごい人が設計したこともあって美しく、まだ4か月ありますがもう既に楽しみでなりません。過去の問題で実力をもっと鍛えて、コンディションにも気を遣い、満を持して臨みます。目指すは10位以内！

団長 井上 卓哉



日本で開催されたIOI2018では出場した日本選手全員がメダルを獲得し、また、派遣再開後すべての13大会連続で金メダリストが出ています。諸先輩が選手だったころから続く良い流れを絶やさぬよう頑張りたいと思います。団長として選手のためにできることはあまり多くはありませんが、選手時代の経験を活かし、選手がアゼルバイジャンから笑顔で帰ってこられるように精一杯のサポートをしたいと思います。

副団長 伊佐 碩恭



IOI 2019 アゼルバイジャン大会の副団長となりました、東京大学 医学部 医学科 3年の伊佐 碩恭です。自分は選手としてIOI 2014 台湾大会に、HSCとしてIOI 2018 日本大会に参加させて頂いたので、今回はその経験を活かし、日本選手団を引率する立場として、問題文の翻訳をはじめとした業務を通じて選手の皆様が競技に集中できるような環境作りに全力を傾ける所存です。よろしくお願い致します。

行方 光一

筑波大学附属駒場高等学校 3年



昨年に引き続き国際情報オリンピックの日本代表になることができました。前は納得のいく結果が得られませんでした。その反省を踏まえて、今回は万全な準備をして臨みたいです。

昨年の日本大会では様々な国から来た選手と交流することができました。アゼルバイジャン大会では、知り合った選手と再会を果たすとともに、新たな友人を作りたいです。今回が、国際情報オリンピックに参加できる最後の機会です。悔いのないよう、頑張っていきたいです。

米田 優峻

筑波大学附属駒場高等学校 2年



国際情報オリンピック・アゼルバイジャン大会では、私は金メダルを絶対に逃したくないです。私は前回大会に出場し「金メダル相当」の結果を残しました。しかし特別参加選手団であったため、公式結果には残りませんでした。悔しかったので今回は絶対金メダルを達成するぞと思っております。高い目標ですが、代表選抜に漏れた人の想いも背負うつもりで、一番を目指します。その為に、全力で練習し、全力で問題を解き、全力で本番に臨みます。

随行員 清水 郁実



IOI2019に随行する清水郁実です。昨年のIOIに選手として出場した経験を活かし、また年齢的にも選手に最も近い立場の随行員として、今大会では4名の日本代表選手が最大限の実力を発揮できるようサポートに努めるつもりです。

○清水さんからは、P.11「これまでの情報オリンピック参加者からのメッセージ」のコーナーにもメッセージをいただきました。ぜひご覧下さい。

日本情報オリンピック表彰式を挙行



2019年3月24日NTT DATA駒場研修センターイベントホールにおいて、「第18回日本情報オリンピック(JOI2018/2019)」表彰式が挙行されました。

情報オリンピック日本委員会 理事長 筧捷彦の挨拶から始まった表彰式は、はじめに全国を6つの地域に分けたブロック制成績優秀者10名、女性参加者奨励制度成績優秀者1名に表彰状とメダルが授与されました。各受賞者には、これまでの国際情報オリンピック(IOI)に日本代表選手として、参加したOBからメダルがかけられました。

次に、本選成績優秀者19名、続いて銀賞1名、金賞1名の表彰が行われました。受賞者全員に筧理事長から賞状が、

金賞・銀賞の受賞者には、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)理数学習推進部様からメダルも授与されました。金賞には、株式会社NTTデータ様から優秀カップが贈られました。また、金賞・銀賞の受賞者に情報処理学会から若手奨励賞が贈呈されました。

各授与の後、ご祝辞をいただき、受賞者の皆さんのこれまでの健闘を称え、激励の言葉をいただきました。

来賓、受賞者の保護者、過去日本情報オリンピックに参加したOB、チューター、情報オリンピック日本委員会関係者など、多数の方々にご参列いただき盛大な表彰式を終えました。

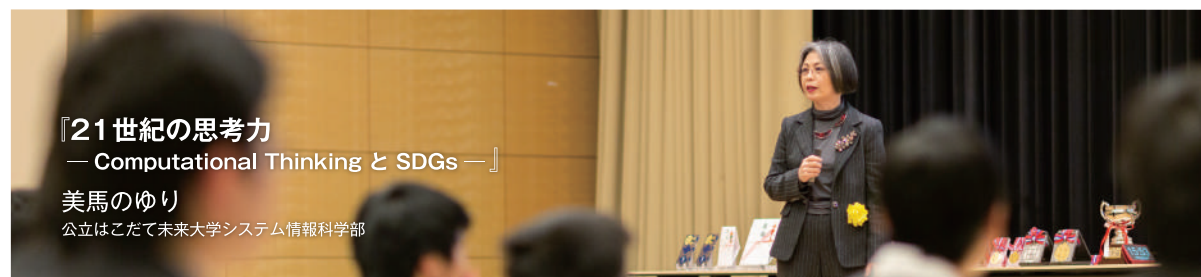


女性参加者奨励制度成績優秀者の表彰



授賞式の様子

記念講演会

『21世紀の思考力
— Computational Thinking と SDGs —』

美馬のゆり

公立はこだて未来大学システム情報科学部

表彰式に先立ち、公立はこだて未来大学システム情報科学部の美馬のゆり先生に「21世紀の思考力—Computational ThinkingとSDGs—」と題してご講演いただきました。

人生100年時代を迎えるこれからの社会は、グローバル化、ネットワーク化、デジタル化が進み、産業構造や雇用の仕組みや教育制度などが変わります。日本では「高齢社会、地方創生、男女共同参画、産学連携、文理融合、グローバル人材・イノベーション人材の育成」が課題となり、世界では、「環境問題、新たな病気の発生、人口増加による水・食料・エネルギーの不足、複雑で見慣れない不定形型の課題」が出現します。

こういった課題を解決するために、「SDGs—世界を変えるための17の目標—」が、2015年に国連で採択されました。この目標に向かって、今、世界中の人たちが頑張っているところです。

人生100年時代の到来で、学校で学んだこと、社会で学んだこと、個人で学んだことがずっと通用するわけではなく、社会が求めている力は何なのか、自分が学校で学んだこととこれから必要になってくることとのギャップを

どう埋めていくか、ということが問題になります。そのために必要な力は「学び続ける力」です。

では、何を学ばいいのか、どうやって学ばいいのか、その方法の一つが「Computational Thinking」です。色んな課題をコンピュータ・サイエンティストのように考えて、問題を解いていく方法です。「分析的、論理的にデータを整理し、そしてそのデータをモデル化したり、抽象化したり、シミュレーションできるような形にする。コンピュータで扱えるように問題を形式化して、可能な解決法の特長、テスト、実装してみる。さらにはそれをアルゴリズム的思考を用いて解決を自動化し、さらに、他の問題にこのプロセスを一般化し適用する」という方法です。

今までの学びは「知識を暗記する」ことでした。これからの学びは「対話し学び合う」ことが重要となります。これからは「問題解決に向け、新しいことを考え出す人の時代」です。自分をバージョンアップしていくことが必要な時代に大事なものは、学び続ける力です。

「科学する心、学び続ける力、これをぜひ持ってください。それが世界を変える力、未来を創る力になると思います。皆さんに期待しています。」と締めくくりました。

表彰式登壇者



科学技術振興機構 調査役
岡田啓一様



株式会社NTTデータ
取締役常務執行役員 木谷強 様



富士通株式会社 総務部長
小山晃生 様



公立はこだて未来大学 教授
美馬のゆり 様



文部科学省科学技術・学術政策局
人材政策課長 坂本修一 様



JCIOI 理事長
筧捷彦



JCIOI 専務理事
谷聖一



JCIOI科学委員会 委員長
伊藤哲史



IOI2018 JAPAN 日本代表
井上航 選手



IOI2018 JAPAN 特別参加
岸田陸玖 選手

第18回日本情報オリンピック (JOI2018/2019) の本選参加者89名中、成績上位の21名が春季トレーニング合宿に招待され、第31回国際情報オリンピックアゼルバイジャン大会 (IOI2019) の日本代表選手選抜競技に臨みました。また、合宿中に行われた表彰式において、下記のとおり表彰されました。



金賞を受賞した、田草川瑞生君(右)と、
銀賞を受賞した、戸高空君(左)



金賞受賞者には副賞としてドローン一式が贈呈されました

■第18回日本情報オリンピック本選 (2019年2月9日～10日実施) 成績優秀者
(第31回国際情報オリンピック日本代表選手候補)

賞	氏名	よみがな	学校名	学 年	学校所在地
金賞	田草川 瑞生	たくさがわ みずき	コードアカデミー高等学校	高2	長野県
銀賞	戸高 空	とだか そら	宮崎県立宮崎西高等学校	高2	宮崎県
優秀賞	井上 誠大	いのうえ まさひろ	灘高等学校	高1	兵庫県
	遠藤 宏哲	えんどう ひろあき	麻布高等学校	高2	東京都
	大佐 健人	おおさ けんと	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
	大淵 将寛	おおふち まさひろ	横浜市立南高等学校	高2	神奈川県
	岡田 颯太	おかだ そうた	明石工業高等専門学校	高専2	兵庫県
	加藤 潤成	かとう じゅんせい	渋谷教育学園渋谷中学校	中2	東京都
	神尾 悠陽	かみお ゆうひ	開成中学校	中3	東京都
	北村 祐稀	きたむら ゆうき	大阪府立大手前高等学校	高2	大阪府
	高橋 昂生	たかはし こうせい	海城高等学校	高1	東京都
	千葉 遼太郎	ちば りょうたろう	筑波大学附属駒場高等学校	高2	東京都
	行方 聖	なめかた あきら	筑波大学附属駒場中学校	中3	東京都
	行方 光一	なめかた こういち	筑波大学附属駒場高等学校	高2	東京都
	平木 康傑	ひらき やすたか	灘高等学校	高1	兵庫県
	星井 智仁	ほしい ともひと	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
	松尾 凜太郎	まつお りんたろう	麻布中学校	中3	東京都
	山縣 龍人	やまがた たつひと	埼玉県立大宮高等学校	高2	埼玉県
	米田 寛峻	よねだ ひろたか	開成高等学校	高1	東京都
	米田 優峻	よねだ まさたか	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
	米山 瑛士	よねやま あきひと	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都

以上21名。本年度は銅賞該当者なし。同賞内での並びは氏名の五十音順。学年は2019年3月時点。

地域参加を推奨するために全国を6つのブロックに分け、各地域の成績最優秀者(金賞・銀賞・銅賞を除く)を表彰しました。また、女性の参加を奨励するための女性参加者奨励制度で、成績優秀者1名を表彰しました。



表彰式に出席された皆さん

■ブロック制成績優秀者

ブロック	氏名	よみがな	学校名	学 年	学校所在地
北海道・東北	藤居 輝	ふじい びかり	北海道札幌西高等学校	高1	北海道
関東	大佐 健人	おおさ けんと	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
	加藤 潤成	かとう じゅんせい	渋谷教育学園渋谷中学校	中2	東京都
	米田 寛峻	よねだ ひろたか	開成高等学校	高1	東京都
	米田 優峻	よねだ まさたか	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
中部	伊藤 佑真	いとう ゆうま	静岡県立浜松工業高等学校	高2	静岡県
近畿	井上 誠大	いのうえ まさひろ	灘高等学校	高1	兵庫県
	平木 康傑	ひらき やすたか	灘高等学校	高1	兵庫県
中国・四国	生駒 創	いこま そう	広島学院高等学校	高1	広島県
九州・沖縄	樋口 陽介	ひぐち ようすけ	久留米工業高等専門学校	高専2	福岡県

以上10名。同ブロック内での並びは氏名の五十音順。学年は2019年3月時点。

■女性参加者の成績優秀者

氏名	よみがな	学校名	学 年	学校所在地
藤居 星	ふじい あかり	札幌市立あいの里西小学校	小6	北海道

学年は2019年3月時点。



情報オリンピック日本委員会は、10年以上の長きにわたり、ご支援いただいている協賛企業2社に感謝状を贈呈いたしました。ご支援の元、2006年以来、毎年国際情報オリンピックに4人の日本代表選手を送り続けることができ、金メダル受賞者を含む多くのメダル受賞者が誕生しています。

株式会社NTTデータ様より メッセージ



株式会社NTTデータ 取締役常務執行役員 木谷強様へ感謝状

この度、情報オリンピック日本委員会（JCIOI）様から長年支援の表彰を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

私どもNTTデータは、日本の若い世代への数理科学の普及・啓発を推進するJCIOIの活動に賛同し、2008年4月、当社創立20周年記念事業の一環として支援を開始いたしました。その後10年以上にわたり、毎年3月に開催される春季トレーニング合宿・表彰式への会場提供（NTT DATA駒場研修センター）、国際情報オリンピック日本代表選手へのユニフォームの供与など、様々な形でJCIOIの活動をサポート・支援して参りました。この度の表彰は、これら長年にわたる当社からの支援・貢献に対するものと伺っておりますが、私どもといたしましては、JCIOIの皆様をはじめ情報オリンピックの活動に携わるすべての方々との歩みを共にし、これら活動の推進に永く関わらせていただけたことを大変光栄に感じております。そして、その十数年の間に計46名の国際情報オリンピック・メダリストが日本から輩出したことは、私どもにとって大きな喜びであり、誇りであります。

そうした中、昨年2018年に国際情報オリンピックが初めて日本（茨城県つくば市）で開催されたことは、当社にとって特に感慨深い出来事になりま

した。2018年という年は、NTTデータ創立30周年にあたる年でもございました。およそ30年に渡る国際情報オリンピックの歴史において、記念すべき第30回大会が日本で開催されたのは、大変に意義深いことでしたが、同時に、当大会が奇しくも当社創立30周年の年に開催されたことは、私どもにとって大変に嬉しく感じられる出来事でもございました。大会の招致・運営にご尽力されたご関係者の皆様に、謹んで心からの敬意を表します。

NTTデータはこれからも、JCIOIと共に歩むパートナーとして、情報オリンピックに関わる活動を通じて、未来ある若き世代へのサポートに努めて参りたいと考えております。そうすることが、ひいては「日本社会における数理情報科学教育の振興に寄与する」とされたJCIOIの事業目的に貢献することができるものと信じております。今夏に開催予定の第31回国際情報オリンピックアゼルバイジャン大会においても、日本情報オリンピック本選を勝ち抜いた4人の日本代表選手の健闘を心より期待しております。

改めて、この度のご表彰に心から御礼を申し上げますと共に、今後も変わらぬご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

NTT DATA

富士通株式会社様より メッセージ



富士通株式会社 総務部長 小山晃生様へ感謝状

この度の永年協賛企業表彰受賞に際し、この場を借りましてあらためて御礼申し上げます。日本情報オリンピックも今回で18回目を迎えますが、当社は2006年の第5回から支援させていただいており、今年で14年目を迎えるに至りました。

当社にとりまして日本情報オリンピックへの支援は、ICTインフラの一翼を担う企業としての社会貢献活動の一環と捉えており、支援を通じて情報処理技術向上へのチャレンジを後押しするとともに、情報技術に興味を持っていただける人財の裾野を広げるという企業としての思いも加わり、毎年支援をさせていただいております。

さて、昨今のICTにおける革新は、皆さまご承知のとおり、凄まじい勢いで日々変化・進歩し続けております。例えば、あらゆるモノがインターネットに繋がる、いわゆるIoT、またIoTによって得られるビッグデータ、さらにはAIや、車の自動運転やセキュリティの生体認証技術など、ICTは、これからの私たちの暮らしを更に大きく変える力をもっているとともに、現実にはICTは私たちの暮らしになくはならない存在になっています。

例えば、当社においてもICTを活用した農業で食料生産の効率を向上させるとか、医療の分野に

おいてスーパーコンピュータを活用し、新薬の開発の効率を飛躍的に向上させるなどの取り組みを行っており、ICTを活用することで、これまでにない新しい価値を生み出すことに繋がっております。

日本情報オリンピックに参加された方の中から、競技によって培われた豊富な知識と経験を糧にして、将来、新しい発見や発明など、これまでにない新たな価値を創造できるような人財を育てることを期待するとともに、願わくば、この類まれなる才能と努力を活かして、今後の世界の発展や社会への貢献に大きく寄与されますことを祈念しております。

当社も今後とも日本情報オリンピックへの支援を通じて、ICTリテラシーの向上支援とイノベーションを起こせる人財の育成に向けて、微力ながら貢献させていただく所存です。

結びに、情報オリンピック日本委員会様の今後の益々のご発展を祈念するとともに、今年8月にアゼルバイジャン共和国にて開催される国際情報オリンピックにおける日本代表選手のご健闘と、さらにはこれまでの関係者の皆さまのご尽力に心から敬意を表しまして、受賞の御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

FUJITSU

JOI 2019/2020 より 予選二段階化

JCIOI 運営委員会委員長 谷聖一

予選二段階概要

JOI 2019/2020 より、これまで以上に多くの方に参加していただけるよう、予選を二段階化します。これまでの予選では、3時間で6問の課題を出題していました。新しい方式では、100分3問の一次予選と、3時間の二次予選の二段階方式となります。

いずれの予選もオンラインで開催されますが、一次予選は3回実施し、そのいずれかで一定以上の成績を収めた方は二次予選に招待されます。また、前年度の日本情報オリンピックで一定以上の実績を残した方なども二次予選に招待されます。詳しいことは、6月に公表予定の『第19回日本情報オリンピック(JOI 2019/2010)実施要領』をご覧ください。

予選二段階化意図

ここで、予選を二段階化する意図を簡単に説明します。

弊会では、定款に掲げておりますように、設立以来、数理情報科学教育の振興に寄与することを目的として、広く一般市民を対象に活動を行ってきました。その一環として、最近の予選では『繰り返しを含む基本的なプログラムを適切に書くことができる者をBランクとします。この意図に基づき、原則として、Bランク基準点を2題分の配点である200点』と定めています。また、2020年度から全面实施される小学校プログラミング教育に続いて、2022年度入学から全ての高校生がプログラミングを含む情報科学を学ぶようになります。このような時代を控え、日本情報オリンピックを、これまで以上にプログラミング初学者にとって参加しやすい大会にしたいと考えていますし、それは弊会の社会的責務でもあります。

これまでの予選では、2題分は上述の通り初学者の目標となるものです。一方、予選は千人もの参加者から本選に招待される70名前後のA ランクの枠を競う競技でもあります。そのため、4番以降の問題は難易度が高く、過去5年の満点の割合の最小値・中央値・最大値は、4番: 2.77%・5.46%・11.77%, 5番: 2.79%・3.55%・3.78%, 6番: 0.20%・1.11%, 1.33%となっています。また、5番・6番を提出した参加者の割合も少ない状況でした。

これから、さらに参加者が増えることも期待されます。初学者が予選Bランクレベルの実力を確認する機能と、Top 70を競う機能を共存させるより分離する方が良いと、弊会では考えました。また、分離するだけでなく、初学者向けの一次予選は複数回実施することで、参加機会の増大も計りました。

生活に甚大な影響を与えるようになりました。巨大で複雑なソフトウェアは、人間が目で見て詳細にチェックするというわけにはいきません。講演では、ソフトウェアの正しさとは何か、ソフトウェアの正しさを保証するためにはどうすればよいか、その基礎となる技術を予備知識なしでわかるように解説いただきました。

第18回 JOI本選併催 教員研修会

2019年2月10日、本選の競技と並行して、本選参加生徒・学生の在学学校の先生にお集まりいただき、教員研修会が行われました。広島学院高等学校の中村義則先生、熊本高等専門学校の小島俊輔先生に、それぞれの学校における情報教育への取り組みについて紹介いただきました。

第18回日本情報オリンピック (JOI2018/2019) 予選・本選



2018年12月9日午後1時から4時までの3時間、「第18回日本情報オリンピック」の予選が、ウェブ上オンラインで実施されました。

本選は、2019年2月9日、10日の2日間、茨城県つくば市のつくばカピオで行われ、本選招待者89名が参加しました。

2月9日の本選1日目は、競技環境に慣れることを目的としたプラクティス(実機練習)と講演会及び夕食会が行われま

した。2日目は、本選競技と競技終了後、問題解説が実施されました。本選競技は、午前9時から午後1時までの4時間で、選手は5問の問題に熱心に取り組みました。その結果、本選の成績優秀者21名が、春季トレーニング合宿(3月19日~25日)へ招待されました。

第18回日本情報オリンピック 本選 講演会

2019年2月9日本選実機練習の後、筑波大学情報科学類長 亀山幸義氏に「正しいプログラムを書くためには? —ソフトウェア検証入門—」というタイトルで講演していただきました。

ソフトウェア、つまり、コンピュータのプログラムが社会の隅々を支えるようになり、ちょっとした間違いでも私たちの

春季トレーニング合宿

2019年3月19日~25日、NTT DATA 駒場研修センター並びに国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、春季トレーニング合宿が行われました。合宿には21名が招待され、全員が参加しました。3月20日から23日までの4日間、午前9時から午後2時まで競技、午後4時から午後6時半まで講義、午後7時半から9時まで講評・解説というスケジュールをこなして、24日の代表選手発表会に臨みました。



日本情報オリンピック ジュニア大会 国際情報科学コンテスト ビーバーチャレンジ2018

小中高生を対象とした情報科学と Computational Thinkingに関する国際コンテストであるビーバーチャレンジが、2018年11月に実施されました。日本は、ビーバーチャレンジには2010年から参加、情報オリンピック日本委員会が運営しています。2018年、日本からは約5000名の児童・生徒が参加しました。

■ビーバーチャレンジ2018概要

<https://www.ioi-jp.org/junior/bebras2018.html>



これまでの情報オリンピック 参加者からのメッセージ



清水郁実さん

University of California,
Santa Barbara (2019年9月から)

IOI2018JAPAN 銅メダル



私がプログラミングを始めたのは中学1年の時で、情報オリンピックへの参加は当時所属していた中高のコンピュータ一部の活動として半ば強制的に登録させられたのがきっかけでした。ただ、当初はあまり内容に興味を持つことができず、最初の3年間は特に練習もせずだらだらと予選に参加するだけで終わりました。

高校に入って時間を持て余し始めた私は、ここでようやく情報オリンピックに真剣に取り組む決心をし、IOIでのメダル獲得を志すようになります。というのも、当時から考えていたアメリカ大の進学にあたって、情報を含めた国際科学オリンピックでの実績は高い評価を得ており、金メダルの獲得は名門校への合格の確約とは行かないまでも、合格の確率を多に上げる要素として機能するということを心得ていたからです。とはいえ事はそう簡単に運ぶわけもなく、実際に日本代表に選出されるまでには丸1年半近くもかかってしまいました。

(ここからは気が抜けてしまったのと受験準備等で忙しかったのもあって、肝心のIOIであまりいい成績を残すことができなかったのですが、結果的に本来の目標だった大学受験でまずまずの結果に落ち着いたので

あれば上々の出来と言えるのではないのでしょうか)

自分の話が長くなってしまいましたが、情報オリンピックの知名度・評価は、日本内外によらず、ここ数年の間で順調に上がり続けていると感じます。単に情報分野が好きで問題を解くのが楽しいから、という理由だけでなく、自分のように進学・就職を見据えた選択として情報オリンピックに取り組む人がもっと増えてほしいと思いますし、皆さんにはぜひ目指せる最大限のところまでチャレンジしてほしいと思います。特に周りよりも遅くに練習を始めた人も、経験年数という目に見える壁で自分の能力を規定することなく、純粋な努力量の総量で勝負するつもりで、諦めずに高い目標を持ち続けてほしいと思います。

情報オリンピックの選抜過程で生まれる他の参加者との繋がり的重要性は言うまでもないですが、高校を卒業してからも、今後情報分野に進むのであれば情報オリンピックを含めた競技プログラミングの経験者と多少なりとも出会うことになると思います。その時に共通の話題として盛り上げられる程度には情報オリンピックに取り組んでおいて損はないのではないのでしょうか。

国際大会への出場者を決める選考会を行います



日本代表選手候補選抜競技会

第19回

日本情報オリンピック

日程 参加申込受付期間

いずれも2019年開催

- 1 回目 **7月1日(月)** 12:00 ▶ **9月19日(木)** 24:00
- 2 回目 **9月23日(月)** 12:00 ▶ **10月24日(木)** 24:00
- 3 回目 **10月28日(月)** 12:00 ▶ **11月14日(木)** 24:00

◎参加申込は、オンラインで受け付けます。参加申込サイトは6月末までに情報オリンピック日本委員会のウェブサイトでご案内いたします。なお、一度参加申込をすると、それ以降の一次予選にすべて参加できます。

予選

いずれも2019年開催

○一次予選

- 第1 回 **9月21日(土)** 14:00～15:40
- 第2 回 **10月27日(日)** 14:00～15:40
- 第3 回 **11月16日(土)** 14:00～15:40

◎二次予選

12月8日(日) 13:00～16:00

本選

2020年

2月8日(土)・9日(日)

春季トレーニング合宿

2020年

3月19日(木)～25日(水)

参加費 **無料**

応募資格

参加資格は、次の2つの条件を満たすことです。①2020年2月9日(日)の第19回日本情報オリンピック本選競技実施時点で、高等学校、高等専門学校、中等教育学校、中学校、義務教育学校、小学校、特別支援学校に在学し、学年が高等学校2年以下(中等教育学校や高等専門学校などの在校生は高等学校2年に相当する学年以下)であること。なお、日本国内において学校以外の初等・中等教育機関に所属している人及び日本国外の初等・中等教育機関に所属している日本国籍を有する人は個別に相談。②生年月日が2000年4月2日以降であること。(ただし、一次予選は誰でも参加でき、二次予選はこの応募資格がなくても二次予選に招待された方は参加可能)

競技内容

課題問題を解決するアルゴリズムを考え、そのプログラムを作成します。高校生レベルまでの数学とプログラミングの知識があれば、誰でも参加できます。



JOIウェブサイト
www.ioi-jp.org

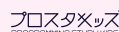


主催 特定非営利活動法人 情報オリンピック日本委員会

共催 国立研究開発法人 科学技術振興機構／茨城県／つくば市 後援 文部科学省 その他申請中

協賛 株式会社NTTデータ／富士通株式会社／

株式会社ミスターフュージョン／AtCoder株式会社／株式会社Preferred Networks



情報オリンピック日本委員会の活動をご支援ください

情報オリンピック日本委員会の活動は、国立研究開発法人科学技術振興機構や、協力者の御寄付に支えられています。御寄付を賜ります場合は、下記のいずれかの口座にお振込みくださいますようお願いいたします。情報オリンピック日本委員会にご支援くださった方には、日本情報オリンピックの表彰式(毎年3月、国内コンテスト優秀者対象)へご招待申し上げます。また、情報オリピックPR誌『情報オリンピックに参加しよう』(年2回発行予定)を送付させていただきます。

銀行振込だと御住所がわかりませんので、できれば郵便振替で「通信欄」に御寄付であることをご記入くださいますと幸いです

郵便振替	口座番号	0 0 1 0 0 - 3 - 2 9 9 3 9 6	加入者名	特定非営利活動法人 情報オリンピック日本委員会
銀行振込	銀行名	りそな銀行 早稲田支店(店番号420)		口座名義
	預金種別	普通預金	口座番号 1 4 1 1 7 3 7	

詳しくはWebサイト(<https://www.ioi-jp.org/>)をご覧ください。
皆さまからのご支援をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Come on in
**Olympiad in
Informatics!**
情報オリンピックに参加しよう! No.26

編集・発行

2019年5月31日発行 第1版

特定非営利活動法人 情報オリンピック日本委員会(JCIOI)

〒108-0075 東京都港区港南2-4-13 スターゼン品川ビル3F

株式会社ミスターフュージョン内

TEL: 03-6773-4616 FAX: 03-6736-0510 E-mail: info@ioi-jp.org